

聖書:テサロニケ人への手紙第二 3章1~5節

説教:主は真実な方です

はじめに

今日から主の御降誕を待ち望むアドベントに入ります。神のひとり子である方が、二千年前に人となって私たちの間に住み、私たちの罪を贖うために十字架でさばきを受けられ、いのちを捨ててくださいました。もしこの方がおいでにならなかったのなら、私たちはなお罪という闇の中で絶望するしかなかったでしょう。

当初、この救いはユダヤ人だけのものであると考えられていましたが、異邦人にも聖霊が降り、救われていくのを見て、主はえこひいきをする方ではないことがわかってきました。そのような流れの中で、パウロが異邦人伝道のために召し出され、ギリシャの港町であるテサロニケに立ち寄って福音を語ったとき、町の多くの人々が救われ教会が建てられていきます。しかしこれを見てねんだユダヤ人たちはパウロを迫害し町から追い出してしまふ。そのためテサロニケ教会は経験豊かな指導者を失い、迫害にも耐えながら信仰を守らなければなりません。そうすると、心配されたことではありましたが、パウロから教えられたことばの解釈を巡って混乱が起きてきます。特に問題になったのは、主の再臨に関してでした。すでに主は再臨されたとか、もう間もなく主は再臨されると言っ、働くのをやめる人たちが出てきた。このことを聞いたパウロはすぐに手紙を書き、不法の者が現れない限り主の日は来ないのだから決してだまされてはならない。どんなときにも堅くたつてパウロから学んだことをしっかりと守りなさい、と命じました。

今日はその続きです。手紙の終わりの方にさしかかってくるなかで、パウロが私たちのために祈ってくださいと言っています。そこにどのような恵みがあるのか、ともに見てまいります。

1 あなたがたと同じように

1) 主のことばが広がる

1、2節を読みます。「最後に兄弟たち、私たちのために祈ってください。主のことばが、あなた

がたのところと同じように速やかに広まり、尊ばれるように。また、私たちが、ひねくれた悪人どもから救い出されるように祈ってください。すべての人に信仰があるわけではないからです。」

このなかの1節後半に「あなたがたのところと同じように」と書いているところに注目します。今まで見てきておわかりのようにパウロはテサロニケ教会に対してかなり厳しいことを言ってきました。そんな厳しいことばを聞かされる側はどう感じるでしょうか。何か一つの問題を指摘されると、それだけで全面否定された気分になることがある。パウロはそういうこともきちんと配慮しています。テサロニケ教会は問題はいくつかあったにしても、やはり神の教会として優れたものを持っている。そのようなことをきちんと伝えようとしている。二つ挙げています。一つ目は、主のことばが速やかに広まった。パウロが最初テサロニケのごく少数の人に福音を語ったとき、その人たちはすぐに信じ、信じた人たちは今度は家族や友人たちに伝えていった。そのようにして速やかに広まって行ったということでしょう。

2) 尊ばれる

そして二つ目に、「主のことばが尊ばれていった」と書いています。これは、「褒められる」とか「賞賛される」とも訳すことができます。パウロが語ったことばは、ただ情報として速やかに広まったのではない。福音を聞いた人たちは、すばらしいと言って感動しながら受け入れていった。

ここに挙げられた二つのことは別に真新しいことではありません。私たちもそうでした。福音を聞いて、自分が罪人であることをはっきりと自覚し、罪の前で絶望していたけれど、そんな罪人を神は救ってくださると聞いて飛び上がるほど喜んだ。それですぐに他の人にも伝えたいと思うようになった。パウロの伝道方法は実にシンプルです。彼はいつでもどこでも、福音がこのようにして広がっていくことを知っていました。

2 同じ苦しむ者として

1)パウロ

しかしそこにはいろいろな困難が待ち受けています。そのために祈る必要がある。自分だけ祈るのではない、テサロニケ教会にも祈っていただきたい。そのように祈りのリクエストを出します。これとおなじことを私たちも普段からしていますから、ごく当たり前の風景に見えるでしょう。

でも、彼がかつてどんな人であったかを思えば、これは驚くべきかもしれません。かつてパリサイ派の若き指導者として先頭に立ってクリスチャンを迫害していたときは、自分の弱みを人に見せるなどもってほかで、絶対に相手に隙を与えない。そういう人だったのです。でもある日、よみがえられた主に出会ったとき、彼は劇的に変えられていきました。主は私たちを救うために十字架で弱くなられ、弱い姿で私たちのそばに来てくださった。であるなら、私たちも弱さを隠すのではなく、むしろ弱さこそが私たちが人つながっていくための大切な結び目になる。そのことをパウロは教えられました。自分は決して強い者ではない。たとえ多くの問題を抱えているあなたがたであるけれど、あなたがたの祈りによって支えられなければならないほどの弱い者である。だから祈って欲しい。このようにしてパウロは自分の弱さを差し出します。

2) テサロニケ教会

では彼にはどんな困難があったのか。ほかの人にはない彼だけの特殊な事情があったということだったのか。2節。「私たちが、ひねくれた悪人どもから救い出されるように祈ってください。」そして3節はこうです。「しかし、主は真実な方です。あなたがたを強くし、悪い者から守ってくださいます。」パウロだけが抱えていた困難ではない。迫害する者たち、悪い者たちと闘わなければならない、そのことはパウロも教会もまったく同じで違いがない。そう言っています。

パウロはテサロニケ教会の指導者という立場に立っています。教会に間違ったことがあれば、厳しいことばで戒め、導く、そこには妥協はしません。そういうところばかりが目に残りますので、パウロはいつも正しくて強くて、困ったことなど一つもない、そんな印象を受けます。でも実はそ

うではない。一人の信仰者として、同じ苦しみを味わっている仲間である。指導する者、指導される者、上であるとか下だとか、そんな垣根はなにもありません。

3 主

1) 真実な方だから

このようにパウロや教会が自分の弱さを正直に出し合って祈りあう姿を見て世の人たちは、おそらく戸惑うだろうと思います。かつてのパウロもそうでしたが、世の人たちは思っています。人に弱いところ見せるなどとんでもない。少しでも隙を見せようものなら、たちまち蹴落とされて負け犬になるだけ。そんな価値観で生きているからです。冗談のような話ですが、「教会では頑張らなくて良いですよ」と言ったら「頑張って努力します」と答えて、弱さを出すことに慣れていない人がたくさんいます。

それくらい難しいことなのに、どうして私たちは自由に弱さを打ち明けられるのでしょうか。3節をもう一度読みます。「しかし、主は真実な方です。あなたがたを強くし、悪い者から守ってくださいます。」

主が真実なからであること、それが根拠としてあるので、だから私たちは弱さを打ち明けることができる。そう言ってます。

2) 私たちを強く立たせる (2章15節)

少し話がそれますが、3節の「強くしてください」とあることばは、2章15節にある「強くたつて」と同じことばです。「強くたつて、語ったことばであれ手紙であれ、私たちから学んだ教えをしっかりと守りなさい。」自分の努力で「強く立つ」のではない。強く立つことは真実な方である主の助けがなければできません。もし、自分の力と努力さえあれば堅い信仰を持つことができるというのであれば、私たちは努力によって罪に打ち勝つことができるということになる。結局イエス・キリストはいらない。十字架はいらない。そういうことになる。これは明らかに間違いです。真実である主の助けをいただかなければ一歩も前に進むことができない。そのことを受け入れなければなりません。

3) どのようにして主の真実を知るのか

どのようにして受け入れるのでしょうか。このことは、どのようにして主の真実をしっていくかと関連します。最後にこのことを考えましょう。

このようなときはイエスの弟子たちがどうであったかを見ると理解しやすいと思います。彼らはおよそ三年半の間、イエスとともに寝食を共にし、生活しながら訓練を受け、みことばを教えられていました。さぞかし優秀な弟子たちであったかと思ったら、みな出世競争にうつつを抜かしていた。彼らは、頭の知識としてはイエスを知っていました。しかし、この方が神の子であることがわからなかった。わからなかったので、十字架の場面になるとこわくなって逃げてしまう。信仰は努力であると考えていた弟子たち。こんな有様でした。そんな彼らが、よみがえられた主に出会ったときに百八十度変えられます。あの十字架で弱くなられたイエスこそ、神のひとり子であった。それまで頭だけの知識だったものが、自分の肉となった瞬間でした。

私たちもおなじです。十字架で弱くなられたイエスを見上げます。イエスのことを最初に聞いたとき、あそこにつるされているのは、私とは関係のない愚かな男。そのようにしか思えなかった。でも、そうではなかった。あの方はこの私の罪のために、進んでいのちをなげうってくださっていた。イエスを十字架につけたのはこの私だった。それが見えたとき、私たちは心の深いところで納得する。この方は真実な方である。そして、この方の助けがなければこのような罪人である自分は前に進むことができないのだと、主を受け入れていくのです。

なぜ私たちは主を受け入れる事ができたのか。まず主のほうから、自らへりくだって弱くなってくださったからではないですか。だったら、私たちはどうなるか。もう弱さを恐れる必要はない。

真実の主が弱さを通してつながってくださってくださったので、私たちはこれからも弱さを告白しながらつながっていきたいと願います。